

【君たちは、あす7日(木)6限が美術の中間テストです】雑学③

2016年の進路通信から

2学期の期末テストは、日本美術史。先週の金曜日と今日の金曜日は日本美術史のお勉強。そこで、今日は、琳派のお話を・・・試験範囲ですので読んでくださいね。

「琳派 京(みやこ)を彩る」琳派誕生400年記念[特別展覧会] 光悦・宗達・光琳・抱一 スーパースターの競演 風神雷神が百年ごとに、降臨！

◆昨年度2015年は琳派誕生400年の年であり、昨年度の秋に京都国立博物館に行ってきました。琳派とは、江戸時代に現れた装飾的な作風を特色とする、俵屋宗達、尾形光琳・乾山、酒井抱一、鈴木基一といった芸術家の一群をゆるやかにつなぐ言葉なんだ。

◆170 本阿弥光悦・宗達にはじまり、180 尾形光琳(弟：乾山)、190 酒井抱一(弟子：鈴木基一)に受け継がれ、それぞれの造形に憧れ、影響を受けているんだよ。

◆授業でもやりますが、江戸時代に主流派であった狩野派は、模写を通じて直接師から画技を学んだのに対し、琳派では時間や場所、身分が遠く離れた人々によって受け継がれていて、このことは他に類を見ない特色なんだ。

◆つまり、狩野派みたいな、脈々と代々つながった(弟子や血縁関係)絵描き集団ではなく、光琳は100年前の宗達の画風に憧れ、抱一もまた100年前の光琳の画風に憧れたんだよ。

◆1615年光悦が徳川家康から鷹峯の地を拝領し、その京都洛北の鷹峯に住み、書をはじめ様々な芸術に関与した本阿弥光悦と俵屋宗達の交流から琳派は始まる。

光悦と宗達

信長、秀吉、家康—天下の覇者がめまぐるしく入れ替わり、世情不安定な時代の都に、光悦と宗達は生まれた。刀剣の手入れや鑑定に携わる家に生まれ、そうそうたる武将たちと交わり、書家として、また陶芸家や漆芸のディレクターとして活躍した光悦。俵屋という絵屋を経営し、公家や社寺、上層町衆のために扇絵や障壁画などを描いて名を知られたという宗達。二人の交流は、美しい料紙装飾と豊麗な書の競作によって、現代に伝えられている。

その宗達、光悦共演の代表作が「重要文化財 鶴下絵三十六歌仙和歌巻」全巻、全長13.56メートル！海上を飛翔し、地上で羽を休める鶴が金銀泥で描かれ、その上に三十六歌仙の和歌が書かれている。書(和歌)が読めなかったけど、良かったっす！！資料集や教科書に作品がないのが残念。

京都鷹峰には、光悦寺・常照寺・源光寺がある。源光寺のお寺の中には、ある丸い窓「悟りの窓」と四角い窓「迷いの窓」があり、いずれも仏教の真理を表している。その窓から観える紅葉や雪景色が有名で訪れるが絶えない。光悦寺は、家康から拝領し光悦が移り住んだ場所だ！・・・君たちもぜひ！！

◆さらに「重文 群鹿蒔絵螺鈿笛筒」本阿弥光悦<教科書P68>
「国宝 舟橋蒔絵硯箱」本阿弥光悦(入れ替えて観れなかった)美術資料集に
「国宝 八橋蒔絵螺鈿硯箱」「秋草文様小袖」尾形光琳・・・美術の教科書に
いい仕事していますよ！

◆そして何といても宗達・光琳・抱一の「風神雷神図屏風」が一堂に！！でも見比べると、やはり宗達やね！雲の描き方が渋く！味があるなあ。

◆抱一の風神雷神は、「ちゃち」っぽく見えるので残念。でも「光琳の風神雷神図屏風」の裏に、抱一が描いた「重文 夏秋草図屏風」は、圧巻やで(僕は別の展覧会でも観ました。) <資料集P31しづいやるお>

◆あっ！風神雷神覚は知っているよね。下は俵屋宗達<教科書参照>



◆この作品が何を表しているのか？これは、単なる風神と雷神だけではない。
雷神は白色・・・白の像に乗っている仏さまは、慈悲の普賢菩薩
風神は緑色・・・緑の獅子に乗っている仏さまは、叡智の文殊菩薩
そして、真ん中の金箔(余白)が釈迦如来を表しているとか。つまり、この絵は釈迦三尊を表現していることになる。

釈迦三尊

釈迦如来(しゃかにょらい)を中尊として、脇侍(きょうじ、わきじ)として左に騎獅の文殊菩薩(もんじゅぼさつ)、右に乗象の普賢菩薩(ふげんぼさつ)を配置するのが一般的。

◆宗達 「唐獅子図杉戸絵」「鳶の細道図屏風」、光琳・抱一の「三十六歌仙図屏風」などなど、まだまだ凄い、画集に載る作品がゴロゴロ展示されていました。

◆最後に、鈴木基一は、抱一の弟子で別の展覧会(奈良のMIHO美術館)にも行ったことがあるのですが、中村芳中という琳派を受け継いだ絵師がいたことを知らなかった。めっちゃ可愛い犬を描いたり、色調もパステル調で勉強になりました。検索してみてくださいね。

◆それから、芸術は時代を超えるというが、300年前の絵師でありながら、今あらためて熱い注目を集めている絵師がいる。江戸時代の京都の絵師！伊藤若冲(1716~1800)だ。テレビでもいくつもの特番が組まれた。僕も5月に「誕生300年 若冲」展を観に東京まで行って来た。

◆没後200年だった2000年の時も京都で特別展が企画されましたが、今年ほどの人気はなかったあ。この伊藤若冲の話題は、また月曜日に・・・必ず読んで学習しておくこと！！